

CAD/CAE一体化環境による シミュレーションの取り組み

2015年11月28日

富士通(株)テクノロジ&ものづくり本部

富士通アドバンステクノロジ株式会社

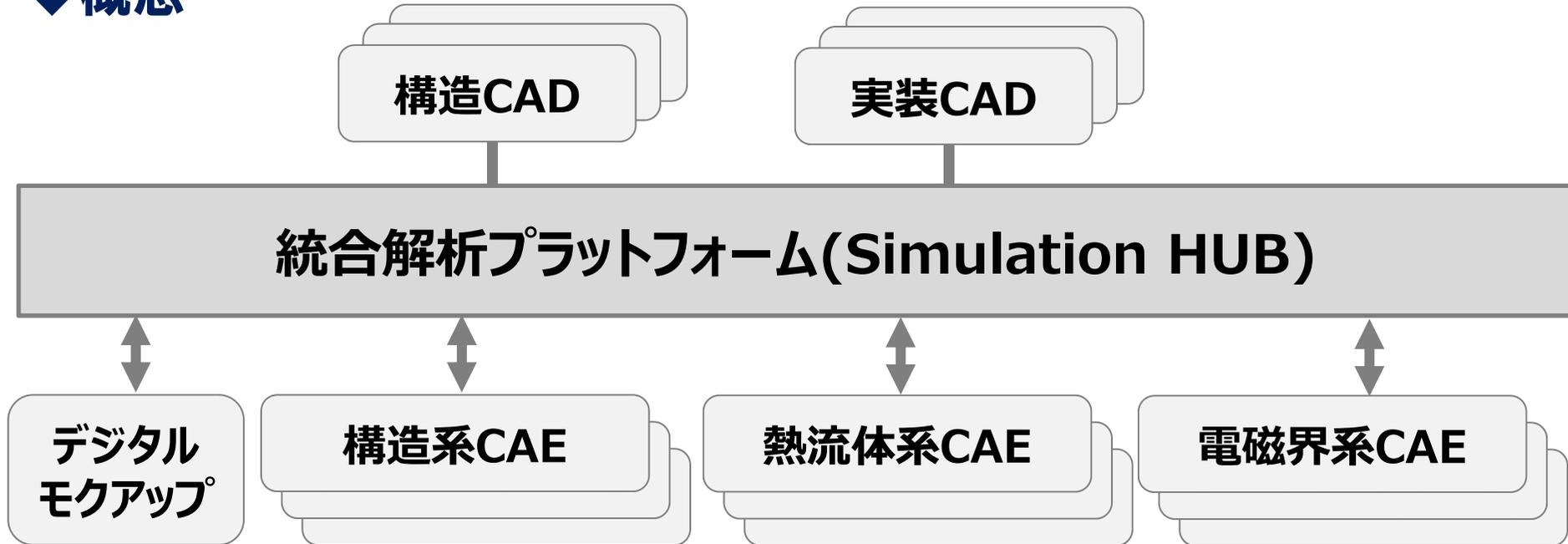
山岡 伸嘉

- 1. 設計者CAEの推進**
- 2. 解析適用事例とその効果**
- 3. 今後の課題**

2.

構造系プラットフォームと解析連携

◆概念



◆特徴

- ・クラウド環境での活用
 - ・プリ、ポストの基本的な操作性が統一
 - ・データの種類も統一
- 解析の種類により使用するツールやデータの種類が異なる煩雑さが解消

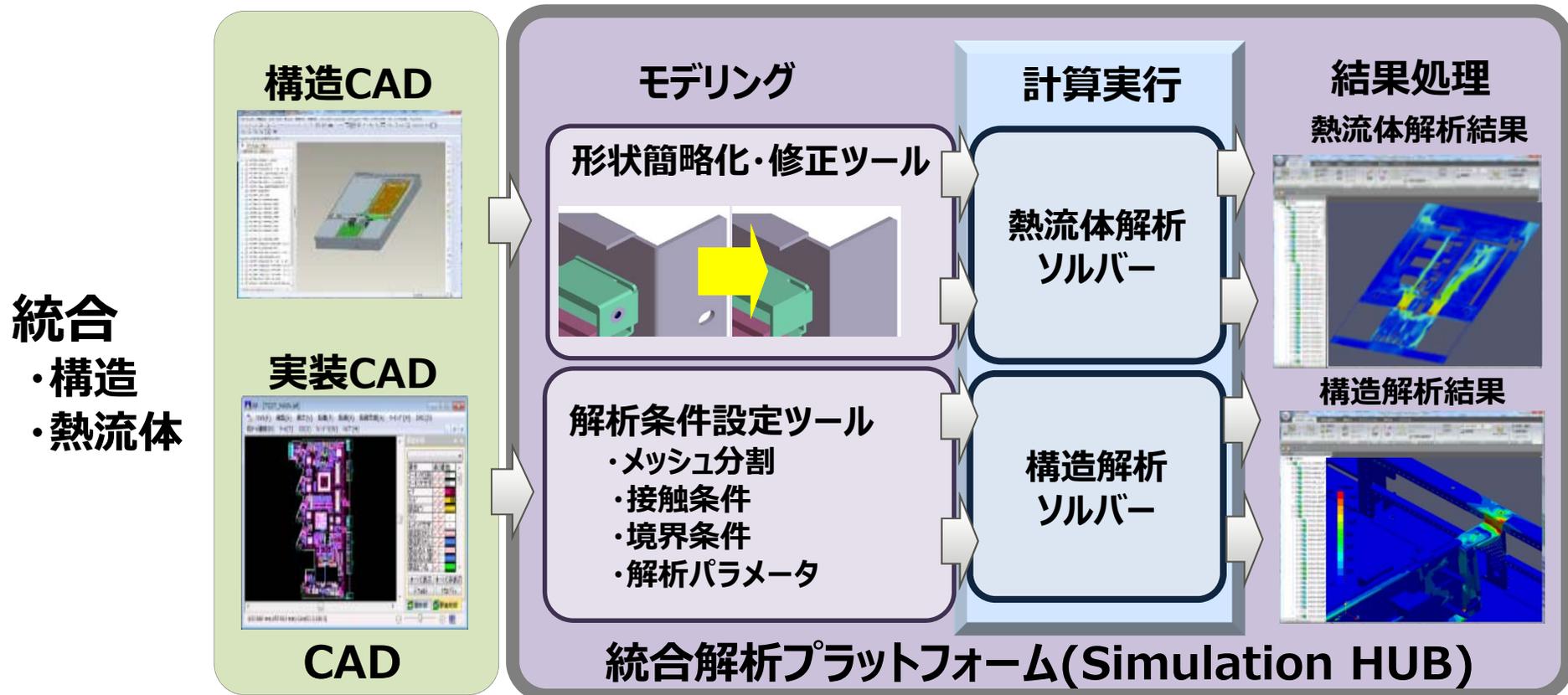
データ管理が容易、流通性が向上

2.

解析環境の統合化で解析効率化

◆あるべき解析プロセス

- ・熱流体・構造解析のモデリング，結果処理を統合
- ・汎用性の追求ではなく、ICT製品向けに必要な共通機能の盛り込み

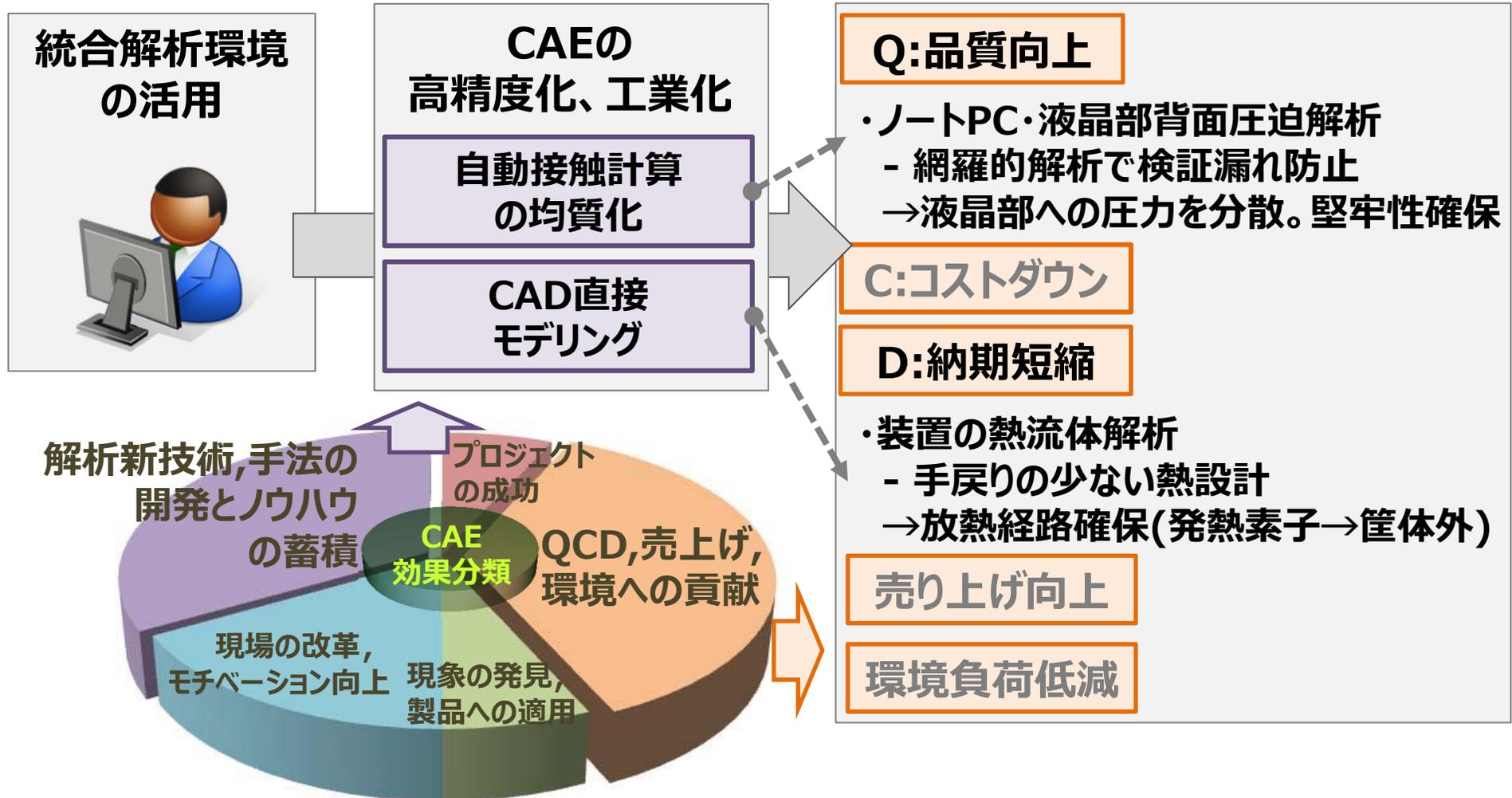


モデリングプロセスの統一、自動化でモデリング手番半減

2.

統合解析環境活用による効果

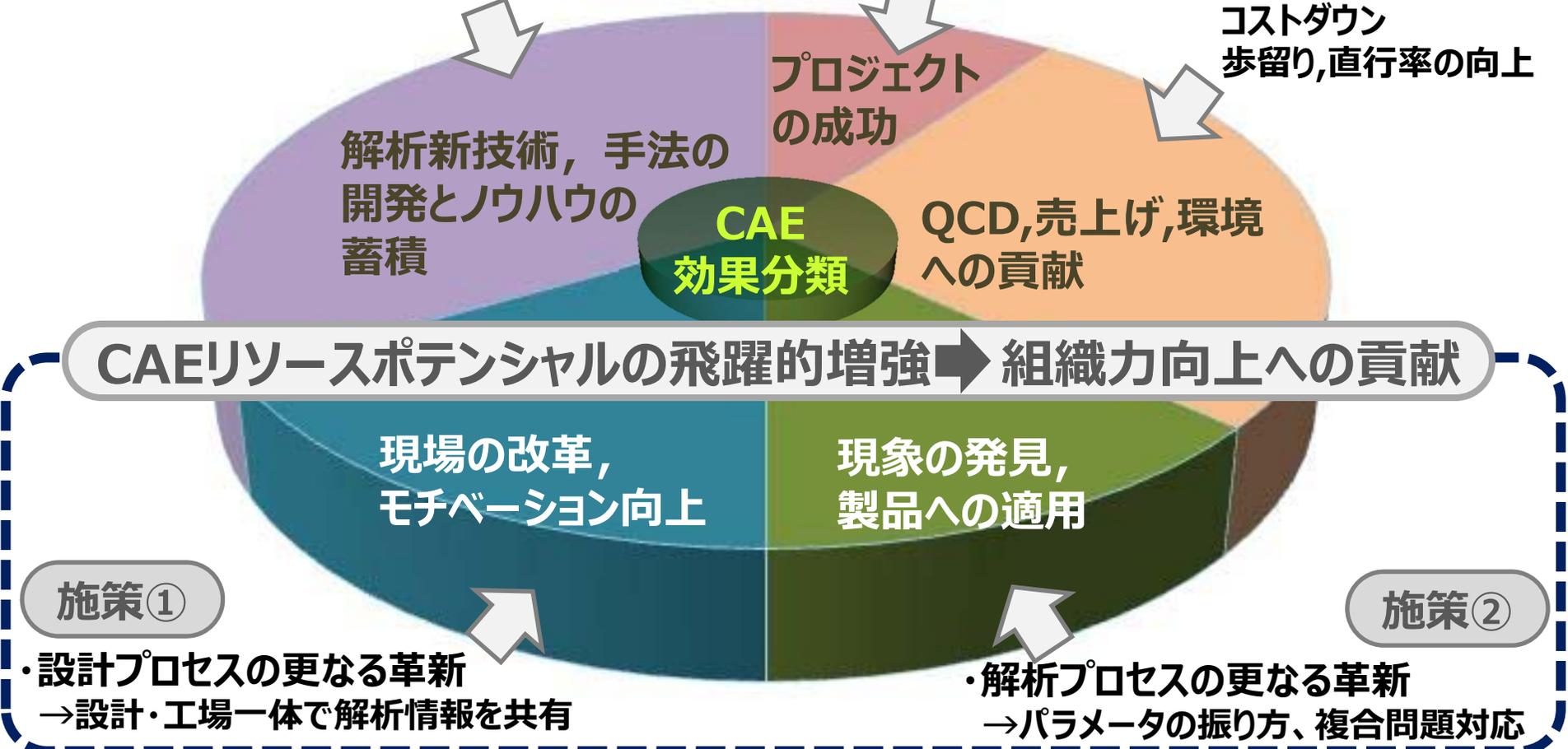
◆効果の分類と実例



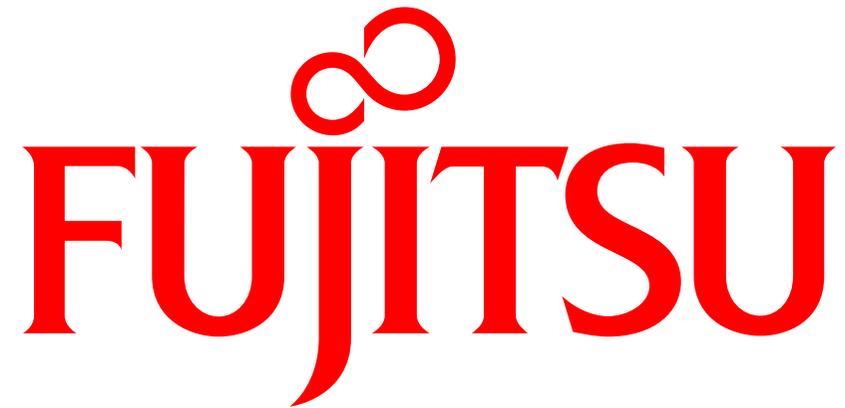
設計側の意見反映, 利用技術の定着に苦勞したが、損益にも貢献

◆「CAE効果発揮の視点」で統合解析環境の活用

- ・モデリングの高精度・工業化の加速
→データベース化によるノウハウ共有化
- ・全社重点課題,ビジネスへ貢献
- ・適用事例の積み上げ
→開発・試作費用抑制
コストダウン
歩留り,直行率の向上



CAE効果全方位を見据え、「**新しい次元の開発革新**」に向けての貢献



shaping tomorrow with you